

2012 年度

学校だより 第25号

2012 (平成24年) 年 10 月 27 日

ヒューストン日本語補習校

運営委員長

退任にあたり

前田 光治



10 月 1 日に運営委員長職を森俊之さんに引き継ぎ、今度は運営委員として補習校のお手伝いをする事になりました。就任当初は学校運営のイロハも知らない自分が 400 名近い児童・生徒の日本語教育に何の貢献できるのか? と不安ばかりでしたが、結果は多くの方々のご支援・ご協力によって支障なく補習校の活動が行われ、お世話になった皆様に心より感謝しています。

学校に深く関わってみて感じたことは、設立から 40 年かけて培われた伝統のようなものが学校を動かしていることです。この 1 年間に校長先生の交替や校舎の一時移転等の大きなイベントもありましたが、補習校は全く動じる事無くいつも通り子供たちを受け入れてきました。この目に見えない力の源泉は何か、それは関係者の皆さんが補習校について共有する意識の高さであろうと思います。山本総領事、上野商工会前会長は「補習校は商工会の最大の事業」と位置付け、惜しみない支援を送って下さいました。また、PTA の皆様は手間の掛かる各種ボランティアをよく組織され、多数の父兄から積極的な学校行事への参加を頂きました。そして、こうしたバックアップの下、最前線で子供たちに接する校長先生、教員・職員各位の熱意と努力が、私の感じた伝統のようなものを形作り、受け継いでいるのでしょう。

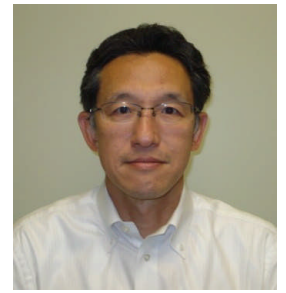
先日、ある教育関係者の方と話す機会があり、「日本の若者の内向き指向が問題になっている。これを救うのは帰国子女ではないか」と話しておられました。ヒューストン日本語補習校が良き伝統を守り、益々発展して素晴らしい人材を輩出してくれることを願っています。

最後に、ご多忙の中で活動されている現運営委員（敬称略：岡田、奥原、國金、鈴木、増田、三浦、森俊二、森俊之）、この 1 年で異動された旧運営委員（同：小山、中邑、深代、柳辺）の皆様は厚くお礼申し上げたいと思います。

運営委員長

就任にあたり

森 俊之



10 月 1 日より運営委員長に就任することになりました森と申します。海外勤務はバンコク、ドバイを経て 3 回目になります。自分は北海道出身ですが東京も含め猛暑の地を転々としたお蔭で、ヒューストンの長い夏も何とか乗り切ることが出来ました。

本校では、現在 400 名弱の園児・生徒が通学する大規模補習校です。毎週遠くからお子様の送迎に通われる保護者の方々の日本語教育への思いや、週に一度という限られた時間の中で指導内容に創意・工夫される教職員の方々の熱意に接し、本当に頭が下がる思いです。

自分も子供が補習校にお世話になっていますが、園児・生徒が週に一度集い友達と楽しそうに過ごしているのを見ると、本校の運営に携わることへのやりがいを改めて感じると同時に、この大切な場を維持・発展させることへの責任に胸が引き締まる思いです。

運営委員会は、商工会加盟企業の中から派遣された 9 名のボランティアで構成されています。授業料に加えて日本政府及びヒューストン日本商工会からの援助を原資とする運営資金の管理や、校舎借用に際しての SBISD との交渉、教職員の採用等を担当しますが、その役割は、教職員の方々が園児・生徒の教育育成に心置きなく励んで頂ける為の学習環境作り、縁の下の力持ちと理解しています。

ご存じのように、本校は、教育委員会と学校が学校運営に責任を持つ日本の公立学校とはシステムが異なります。園児・生徒が安全且つ快適に教育を受ける為には、保護者・教職員・運営委員会が、密接に連携し意思疎通を図って課題に対処していくことが円滑な学校運営の大前提に成りますので、この場をお借りして保護者の方々のご理解・ご協力をお願いします。

宇宙・医療の先端産業を中心とした近代的な側面と独立心旺盛なテキサスの気風が併存するこのヒューストンの大地で、本校で学んだ子供達が日米の優れた文化を吸収し、国際色豊かな良識人として、両国の交流・発展に寄与する人材に成長することを願って止みません。

末筆になりますが、この一年間補習校の運営に腐心された前田前運営委員長に改めてお礼を申し上げ、就任の挨拶とさせて頂きます。

御 礼

ヒューストン日本語補習校大運動会は、大勢の皆様のおかげで盛大に行なうことができました。心より感謝申し上げます。有難うございました。来年もよろしくお願い申し上げます。

学年目標の 紹介

中学部 学部目標

実力をつけ、自分の可能性を広げる。

1 学年

下 学 上 達

2 学年

責任を持って行動する

— 提出物はきれいに（自分の提出物に責任を持つこと） —

3 学年

絆（互いに支え合い、励まし合い）

高等部 学部目標

学習意欲の向上を図り、
基礎学力を定着させ、
将来の進路を見据えた学習態度を育む。

1 学年

集団生活の中で規律ある態度を養い、
礼儀を重んじるとともに、
誠実で思いやりに満ちた人間性を育む。

2・3 学年

規律を守り、お互いに協力し合って
有意義な学校生活を送れることができる
生徒を育成する。

◆パトロール当番予定表11月3日◆

これは10・11月当番一覧表に記載された予定です。
変更の場合はこの表とは異なりますのでご注意ください。

| | 学年 | 順位 | 児童生徒氏名 |
|-----------|----|-----|--------|
| ★AM1 リーダー | 高2 | 1 7 | 大熊 夏季 |
| | | 1 8 | 黒丸 栞 |
| | | 1 9 | 森 佳穂 |
| | | 2 0 | 稲尾 健太郎 |
| | | 2 2 | 三沢 輝璃 |
| | | 2 3 | 秋山 大治 |
| | | 2 4 | 丸山 莉南 |
| ★PM1 リーダー | 高2 | 2 5 | 畑中 正信 |
| | 高3 | 2 6 | 古川 健吾 |
| | | 2 7 | 岩崎 匠吾 |
| | | 2 8 | 青山 一洋 |
| | | 2 9 | 吉野 芳菜 |
| | | 3 0 | 岡崎 太士朗 |
| | | 3 1 | 寺田 優理 |

生徒作品

詩を書く 「十五夜」

空を見上げて、月よせて、思いを、
夢を、思い出を・・・詠ってみよう。

十五屋へようこそ 中1 藤井龍之介

「十五屋へようこそ」
私はもちに手をつけ待った。
耳をすませた・・・
十五夜のパフォーマンスが始まった。
こおろぎは歌い、
すすきはおどり、
ふくろうは見届けている。指揮者は、月
全ての役者がそろった。
耳で音楽を聞き、
鼻で酒をかぎ
はだでやさしい風を感じ
口でおはぎを味わい。
目で月を見る。

また来年、十五屋へのご来店、お待ちしております。

赤い満月 中1 竹山泰虎

赤い満月顔を出し、
大きくぼんやり輝いた
やみ夜のカラスも月見つけ、
かえるが月を飛びこえた

赤い満月空上り、
小さく黄色に変化した
星は月を逃すなど、
円を描いてきらめいた

～11月は学年行事が続きます～
3日 小学部3年 工場見学
10日 中学部1年 美術館見学
17日 幼稚部 遠足

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077
Tel.281-531-6743 / Fax.281-531-6795 (事務局 火～金曜日)

Tel.Fax 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org

Home Page: www.jeihouston.org

H.P.に於て学校便りをカラーでご覧になれます。

(文責 : 校長 山岡 清孝)